



# 城南中だより

第 5 号

令和8年7月17日発行

学校教育目標 希望と愛をはぐくむ美と活力の学校

～常に『思考』を大切にして、『創造』と『進化』を続ける魅力ある学校～

〒339-0034 さいたま市岩槻区笹久保577 TEL 048-798-0007 さわやか相談室直通 048-797-0514

## 校長からの宿題

校長 吉 原 誠 士

日本の政府機関の一つである文化庁では5年ごとに「国語に関する世論調査」を実施、最新のものは2023年度版で全国の16歳以上3559人から回答を得ています。国民の読書量もまとめられていますが、「紙媒体だけでなく電子書籍も含めて『1か月1冊も本を読まない』人が60%を超える」という結果が載っています。この「1冊も読まない」回答者の内、70%以上が「SNSやインターネット記事など本以外の活字には『ほぼ毎日』接している」状態で、「携帯電話、スマートフォンなどで時間が取られる」ことが「読書離れ」の一番の理由とのことでした。

「本」に対してこの有様ですから「新聞離れ」はより深刻で、日本の新聞購読率（どれだけの人が読んでいるか）は2008年度から約40%下がり、2025年は50.1%になりました。ここ最近の選挙でも政治に関わる情報は「SNSやネットを参考にする」人が増えていると言われます。しかし、自分が好む内容や自己の考えに合う情報だけを求めるようになることが繰り返されると、偏った考えに陥ることが心配されます。「**違う立場に立つ人の存在を知り、注目度が低い話題にも触れ、多くの他者を理解すること**」は、これからの世の中に生きる上で大切な資質でもあります。

文部科学省による「全国学力学習状況調査」では、**読書量や新聞購読の有無が成績と関係すること**が繰り返し述べられています。学校現場では多くの教員から会話内容が80%程度しか伝わらない子どもが増えつつある声があがるようになりました。日常の会話・対話を支えるのは、**語彙力（たくさんの言葉・単語を知っている）や読解力（文と文章で何が述べられているかわかる）**などの国語の力です。その力を養い、鍛えるには「たくさんの文章を読む」「たくさん文字を書き連ねる」ことが必要です。そこで本校でも読書と新聞活用を進めてその対策とします。

語彙力や読解力は全教科のすべての学習、あらゆる生活場面に必要な力で、意識して鍛錬するものです。幸いなことに、学校図書館司書の和田先生や図書委員会、国語の先生方の尽力もあって、本校の図書館利用は活発です。**すでに中学生のうちに読書を習慣化できるように取り組んでいる**のです。さらなるパワーアップのため、ここに**新聞を使った活動を加える**のです。これは校長室発の宿題です。終業式の日、新聞一部とワークシート2枚（台紙）を配布します。記事を2つ選び要約とそれに関する意見、感想を書き込んでもらいます。この活動は2学期以降も継続的に行う予定で、学校を挙げての取り組みです。ご家庭での協力もお願いします。一緒に頑張りましょう。

**本格的な夏を迎えます、暑さ対策を万全にして勉学に励んでください！**

**一回り大きくなった立派な姿を見られることを期待します！**